



岡山県マスコット「ももっち」

# 目標 — 現状 = 課題

令和6年6月21日にNITSが開催した特定課題探究研修(働き方改革探究研修)で、「現状が変容すれば課題(解決しなければならない問題)も変わる。」という話がありました。令和5年度の勤務実態調査の結果等を踏まえた本県の現状(6月の時間外在校等時間)と目標は右のとおりです。

この結果は抽出校の平均時間ですので、市町村又は学校ごとに現状は異なると思います。具体的な課題設定につなげるため、各教育委員会、各学校の現状(令和5年度の月当たりの時間外在校等時間平均)と今年度の目標を右に書き込んでみましょう。

【岡山県】	(R5.6月調査)	(R7.6月目標)
小学校	約50時間	約43時間
中学校	約51時間	約45時間
高等学校	約52時間	約42時間
特別支援学校	約28時間	約25時間

※目標は「令和4～6年度学校における働き方改革重点取組」で示したものの。

【所属校等】	現状 (R5年度月平均)	目標 (R6年度月平均)
小学校	時間	時間
中学校	時間	時間
高等学校	時間	時間
特別支援学校	時間	時間

Pick Up!

## 江南市立布袋中学校の実践

(図1) グループでまとめた働き方改革推進に向けたアイデア例

上記のNITS研修では愛知県江南市立布袋中学校の事例発表がありました。布袋中学校で行われた働き方改革についての校内研修におけるワークショップの手順を紹介します。

### ①ルール確認

内容の質は気にせずアウトプットの量を増やすことを重視すること、仲間のアイデアを批判したり評価したりせずすべてを歓迎することを確認した。

### ②意見出し

学年内でいくつかのグループに分かれ、働き方改革について自由な意見出しを行った。グループの記録係は、GoogleのJamboardを活用して出されたアイデアをデジタル付箋に記入し、グループ用のシートに張り付けた。(図1)



出典：令和6年度探究型中央研修特定課題探究研修(働き方改革探究研修)  
(長瀬 基延) 講義資料

### ③意見の分類

出てきた意見を、学年の枠を超えたグループに編成し直し、内容ごとに「自助(個人でできること)」「共助(組織でできること)」「公助(国や自治体、教育委員会のできること)」に分類した。「共助」に分類されたアイデアは教頭通信を通じて改めて職員全体で共有を図った。

「自助」「共助」「公助」という形で取組の主体を分類することで、自分たちで取り組むべき課題が明確になっています。布袋中学校では、「共助」のアイデアの多くが、組織的に一つ一つ実行されています。

## 放課後の時間を生み出す取組

福岡県古賀市では、2023年度から6時間の日を週1日にすることで、教員が授業改善のための時間や子どもたちに接する時間を確保できるようにしています。校長会で話し合い、夏休みを25日間、冬休みを11日間と短くすることで、減らした分の授業数を確保しています。教育委員会、学校、教職員が一体になることで、目指す学校の姿の実現につながると考えられます。